

JR 東労組青年連絡協議会声明発出！

私たちは騙されない！！ 職場の奮闘と努力に報いない低額回答を 許さずたたかう青年連絡協議会声明！！

2026年3月12日、申17号「2026年度賃金引上げ等に関する申し入れ」、申18号「2026年度夏季手当等に関する申し入れ」の第3回団体交渉において会社から、「ベースアップ平均3,271円（能力昇給区分2の額）、昇給平均3,271円（係数1.0、区分2相当の引き上げ）」、「夏季手当、役割遂行賃金の2.9ヶ月分」と、回答日前の早期回答にも関わらず、職場の奮闘と努力が報われない低額ベア、夏季手当は昨年比去年増という回答が示され、断じて許すことは出来ない！

JR東労組青年連絡協議会は、春のたたかいにおいて「総対話・メッセージ行動」に取り組み、各地において全青年組合員の参加にこだわり、意見交換会等の集まる場を開催し、点在する仲間を置き去りにせず、横のつながりをつくり出してきた。また、すべての運動を組織強化・拡大につなげていこうと議論を深め、総対話・メッセージ行動の貫徹を目指し、担い手の強化と、組織拡大を実現してきた。

総対話では「安全軽視、労働者軽視の会社姿勢は絶対に許せない！要求満額回答で組合員・社員に報いるべきだ！」「新人事・賃金制度になり賃金は上がっても物価上昇分に対するものではない！！」「現場の努力によって会社が成り立っている！社員に報いるべきだ」など、会社経営姿勢やモチベーション、離職に対する多くの声が寄せられた。

2月27日には、「26春闘総決起集会」を開催し、各地の仲間から職場における実践と、若手の組織拡大が進んでいる報告を受け、安全軽視と働くものを大事にしない傲慢な経営姿勢に立ち向かい、更なる組織強化・拡大を実現し、2026JR総連春闘を全員でたたかい取る決意を参加者全体で確認した。

この間、青年層の組織拡大が進まない現実を乗り越えるために、各地において実践の中で見えた悩みを本音で語り合い、互いに指摘し合いながら、組織的な議論で組織拡大を実現してきた。

現在、青年層の組織拡大が進んでおり、今春闘期間中に9名の仲間がJR東労組へ加入した。加入した仲間から、「会社姿勢を変える為にはJR東労組しかない」「パワハラやセクハラなど無く、働きやすい職場を共につくりたい」「労働者の権利を守るために自らも行動していく」と出されている。

今後も働く者の雇用と利益を守るために、仲間へ寄り添い、仲間と共に会社経営姿勢に立ち向かい、JR東労組へ多くの仲間の結集をつくり出していく。

会社は、私たちが要求する「定額18,000円のベースアップ」とは大きくかけ離れた、ベースアップ平均3,271円の低額回答をしたにも関わらず、制度改正に伴う処遇改善を賃上げに含み、全体で40,000円以上（約11%）の賃上げを実現したと打ち出し、私たちに騙そうとしている。これは、ベースアップと定期昇給を求める本来の春闘交渉を逸脱する行為であり、世間相場から大きくかけ離れた低額回答と合わせ、春闘破壊以外の何物でもない。

また、期末手当の算出方法変更により、都市手当や扶養手当が除外され、特には子供が多い家庭において、期末手当が大きく減少する。これは夏季手当だけではなく、年末手当にも影響を及ぼし、私たち青年世代にとって、将来に大きく関わる問題である。また、初任給が増えず、賃金カーブが寝る30代・40代の賃金が抑えられることに対する問題意識を会社に訴えるも、「65歳まで働けば生涯賃金は上がる」「断面で見るべきではない」と回答した。職場からは、「数字で誤魔化すのに精一杯な経営陣に怒りがある」「過去最高の営業収益なのに、出し渋るな」「ベースアップとは関係のない賃金を含めて、さも賃上げをしている様に打ち出し社員を騙そうとする姿勢は許さない」と多くの声が上がっている。

JR東労組青年連絡協議会は、私たちに騙し、職場の奮闘と努力に報いず、今後を担う私たち若手世代を大切にしない会社姿勢を断固許さず、今後も諦めずたたかいをつくり出す。そして、多くの青年組合員・未加入者と対話し、傲慢な経営姿勢に立ち向かう仲間を増やしていく。今の会社のままでは、将来にわたって、若手が安心して生活することは出来ず、更には仕事をする事さえも不安に感じる。

今こそ、JR東労組組織の強化・拡大を推し進め、多くの仲間と結集し、私たちの安全・健康・ゆとりを青年連絡協議会一丸となりたたかい取っていかう！！

2026年3月24日
東日本旅客鉄道労働組合
青年連絡協議会幹事会一同